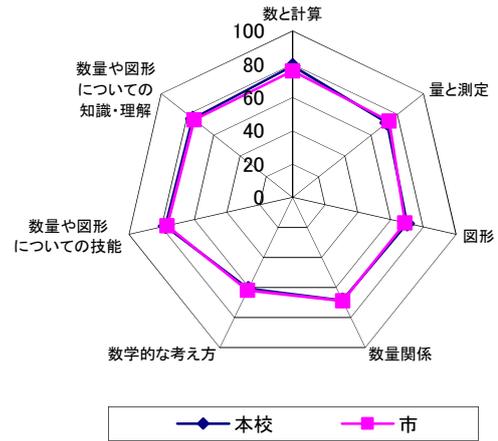


宇都宮市立海道小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.1	76.1	73.5
	量と測定	72.2	73.6	70.1
	図形	70.0	68.8	66.6
	数量関係	68.5	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	60.8	61.8	54.9
	数量や図形についての技能	77.7	76.7	73.2
	数量や図形についての知識・理解	76.1	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は79.1%で、市の平均より3ポイント高い。</p> <p>○分数の計算の問題が高い正答率だった。特に、分数の除法の意味を理解する問題では、90%の正答率で、市の正答率を25.4ポイント上回った。</p> <p>●図を使って小数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題は、市の正答率より8.1ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルやプリント類を活用して、繰り返し問題を解くことにより、計算力の定着を図っていく。 ・文章問題に関しては、図や数直線などを活用して問題の題意をとらえさせたり、見直しをもって解答を求めさせたりするようにする。
量と測定	<p>平均正答率は72.2%で、市の平均を1.4ポイントを下回った。</p> <p>○面積や体積を求める問題の正答率が高かった。特に、直径が与えられた円の面積をもためる式を選ぶ問題は93.3%の正答率で、市の正答率を4ポイント上回った。</p> <p>●道のりと時間から時速を求める問題では、市の正答率より8.8ポイント下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年のまとめの学習の単元において、単位量当たりの問題の定着を図る。また、速さや割合の問題を発展的に考える際に、図や数直線を活用して式を求めるようにする。 ・速さの問題について継続して復習していく。その際、道のりや時間の異なる問題を扱い、速さに対する感覚を育てていく。 ・ドリルやプリント類を活用して、繰り返し問題を解くことにより、様々な形の面積や体積を求める計算力の定着を図っていく。
図形	<p>平均正答率は70.0%で、市の平均より1.2ポイント高い。</p> <p>○3辺の長さを使って合同な三角形を作図する問題は100%の正答率で、市の正答率を6.3ポイント上回った。</p> <p>●線対称な図形の対応する点を見つける問題は、市の正答率より7.9ポイント下回りつまずきが見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対称な図形に関する問題は、ドリルやプリントで反復練習して定着を図る。 ・図形に関する問題は、具体物を活用し、理解の定着を図る。
数量関係	<p>平均正答率は68.5%で、市の平均を0.4ポイント下回った。</p> <p>○円グラフ割合を読み取る問題では100%の正答率で、市の正答率を6.2ポイント上回った。</p> <p>●反比例の表からあてはまる数を求める問題は、市の正答率より1.3ポイント下回り、つまずきが見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の式や割合を苦手としている児童には、図や数直線をかいて考えるなどの個別指導を行う。また、問題を自力で解くことを通して苦手意識を取り除いていくようにする。 ・今後も単元の間や家庭学習で既習の学習を振り返る場を計画的に設け、基礎力の定着を図る。